

表面処理

ARC S1PWの性能を長期的に保つには正しい表面処理を行うことが重要です。適切な条件は使用状態の厳しさ、期待される寿命、初期の下地状態により異なります。

鋭いエッジ部分や溶接部は、研磨ブラスト前にグラインダーで滑らかにあるいは半径3ミリメートルにする必要があります。最適な前処理は、汚れが全て除去され金属の断面が75から125ミクロンに粗面仕上げされた状態です。通常、**ホワイト・メタル (Sa 3/SP5)**あるいは**ニア・ホワイト・メタル (Sa 2.5/SP10)**の清浄度まで初期洗浄と脱脂、研磨ブラストを行った後、残留物を除去します。

混合

混合と塗布を容易にするために、製品温度を21°から32°Cに保ってください。各キットには、正しい混合率に従い、事前に計量された2つの成分が入っています。更に小分けする場合は、正しい混合比率に従ってください。

混合率	重量比	容積比
A : B	3.0 : 1	2.0 : 1

ARC S1PWを混合する前に、A剤とB剤をそれぞれ攪拌し、沈殿した成分を再分散させてください。手で混合する場合は、B剤をA剤に加えて、材料の色と粘度が均一になり縞がなくなるまで、混合してください。電動混合の場合は、Jiffyブレードのような空気無介入ブレード付きの可変速度ミキサーを使用します。作業時間に塗布できる量以上は混合しないでください。

作業時間 - 単位:分

	10°C	16°C	25°C	32°C	本チャートはARC S1PWの混合開始後の実際の作業時間を示しています。
5リットル	150分	130分	90分	60分	
16リットル	95分	80分	55分	40分	

塗布

ARC S1PWはスプレーシステム、ブラシ、あるいはモヘアのようなリントフリーの短いナップローラーを使用したローラーで塗布できます。ARC S1PWを塗布する際は以下の条件を遵守してください。コート毎の膜厚領域:250ミクロンから375ミクロンARC S1PWは通常、2色交互で最低2コート塗布されます。NSFスタンダード61認証は最高3層までのコーティングで塗布されることを要求しています。使用温度領域は10°Cから38°Cです。ARC S1PWは、溶剤で希釈せずに、複数成分エアレススプレー装置で塗布することができます。装置のガイドラインについては、ARC技術告示 006 を参照してください。

スプレーを使用する場合は、最初75から125ミクロンの厚さで塗布してください。最初のコートが推薦される厚さになるまで、層を続けて形成します。垂直あるいは頭上塗布の場合は膜厚が薄くなる場合があります。追加コートで補正する必要があるかもしれません。

使用膜圧条件	最低コート数	コート毎に推薦される厚さ	推薦される最終膜厚	注:多層コートで完全に被覆するには、ARC S1PWを各コート最低300ミクロンの厚さで塗布することをお勧めします。
大気 (構造用鋼)	1	250から375ミクロン	250から375ミクロン	
静止浸漬	2	250から375ミクロン	500から750ミクロン	

塗布された膜に汚染がなく、硬化が下記硬化時間表の「オーバーコート終了」時点に達していない場合は、ARC S1PWをさらに表面処理を施さずに上塗りすることができます。硬化がそれ以上に進んでいる場合は、軽い研磨ブラストあるいは研磨を行った後、残留物を除去する必要があります。ARC S1PWは、軽荷重の状態に達する前に、ARCビニルエステルベースのコーティングを除く、ARCエポキシ材料で上塗りすることができます。

塗布面積

厚さ	ユニットサイズ	塗布面積
375ミクロン	1125 ml	3.00 m ²
375ミクロン	5リットル	13.33 m ²
375ミクロン	16リットル	42.67 m ²

硬化時間

	10°C	16°C	25°C	32°C	注: 強制硬化させると全機械耐性に速く到達します。強制硬化は、半硬化に達した後65°Cで4時間加熱します。
半硬化	8時間	7時間	6時間	4時間	
軽荷重	36時間	24時間	18時間	12時間	
オーバーコート終了	44時間	36時間	30時間	24時間	
全機械耐性	72時間	48時間	36時間	26時間	
全薬品耐性	240時間	210時間	168時間	120時間	

洗浄

市販の溶剤 (アセトン、キシレン、アルコール、メチルエチルケトン) で使用後の工具を直ちに洗浄してください。一旦硬化すると削り取らなければなりません。

安全性

使用前に必ず適切な安全データシート (SDS) あるいは貴地の安全シートを参照してください。標準の作業時間や作業開始に関する手順があれば、それに従ってください。

貯蔵期間未開封容器): 1年 [乾燥した、湿気のない屋内施設で10°Cから32°Cで貯蔵した場合]



Certified to NSF/ANSI/CAN 61